

報復される神

ナホム書1章

主はねたみ、かつあだを報いる神、主はあだを報いる者、また憤る者、主はおのがあだに報復し、おのが敵に対して憤りをいだく。(2)

ナホム書はアツスリヤの都ニネベの滅亡に関する預言です。アツスリヤは北王国イスラエルを滅ぼし、南王国ユダをも脅かしていました。勢力が絶頂にある強大国アツスリヤもやがて滅亡するとナホムは告げたのです。

アツスリヤが滅ぼされるのは主が激しい怒りをもつて彼らの罪に報いられるからであるとナホムは語ります。わたしたち日本人の感覚からすると、憐れみと慈しみに満ちた愛の神は怒つたり報復したりなどしいはずだと思つてしまいます。けれども聖書は義なる神は罪に対しては必ず報いを与えられると語っています。その一方で、「主は怒ることおそく」(3)とも紹介されています。ニネベの町の人々はまさにそのことを経験しました。かつて預言者ヨナが神の審きを語つたとき、人々が心から悔い改めたため、主は怒りをとどめられました。けれども人々の悔い改めは長続きしませんでした。このため、主は彼らに対して決定的な審きを下ることを告げられたのです。主は悔い改める者たちに対しては怒りをとどめられる方ですが、背き続ける者たちにはその罪に報いる方なのです。

神の怒りが遅いことをいいことに、神をあなどつてはなりません。「主はあだを報いる者」、それが聖書が語る義なる神であることを心に留めたいものです。